

江戸時代の播磨と宍粟 ―大坂城と山崎藩本多氏―

江戸時代は、一六〇〇年の関ヶ原合戦で幕が開きました。播磨はその象徴的な土地で、合戦の結果、豊臣勢力が一掃され、播磨一国五二万石が勝者徳川家康の女婿池田輝政に与えられ、その国力を背景に一六〇九年、世界遺産姫路城が築城されました。輝政の次男忠義と三男忠雄、それぞれの名義で与えられた備前・淡路を加えると輝政の知行高は一〇〇万石となり、「西国将軍」と唱えられる



山崎小学校の発掘調査で出土した軒丸瓦
(左) 本多家の立葵紋、(右) 池田家の揚羽蝶紋

大実力を誇ったのです。

しかし、池田輝政が死去し、一六一四〜一五年の大坂冬・夏の陣で豊臣家が滅びると、姫路城中心の戦時態勢は大きく変化します。池田氏に代わって姫路に入った本多忠政の知行高は一五万石と減り、その後、松平氏・榊原氏・酒井氏と頻繁に交替しますが、姫路藩一五万石で踏襲されます。三五万石余の大きく減った分は、小笠原氏・本多氏などの譜代大名を配置して成立した明石・竜野・山崎藩に充てられたほか、赤穂・林田などの外様藩も立藩されています。播磨は池田氏一大名の「領国」から、複数の大名領の共存する態勢「非領国」へと大きく変わったのです。

同時に、輝政時代に姫路城が担った西国支配の役割は、一六二〇年に築城の始まった徳川大坂城に任せられ、大坂城代をトップとする城番体制が成立します。幕末まで続くこの体制は、江戸から將軍の名代として派遣され、大坂城内西の丸に屋敷を構え大口を守護する城代、京橋口と玉造口を守護する定番、東西の大番頭(とそれに率いられた大番衆)、そして山里丸・中小屋・青屋口・雁木坂を守る加番から構成され、蟻の通れる隙間もない警衛態勢を誇ったのです。城代には一〇万石以上の名門譜代大名(たとえば篠山藩青山氏)、両定番と加番には一〜二万石程



平成23年度に修復を行った山崎陣屋の紙屋門

度の大名、そして大番頭には五〇〇〇石の大身旗本から一万石程度の大名が任じられましたが、その任務は彼ら大名にとつて、国元と参勤する江戸のほかに「天下の台所」大坂を体験する大きなチャンスとなったのです。

宍粟郡山崎に陣屋を構えた本多氏は、一六七九年に入封した忠英以来、忠鄰まで八代続きますが、藩主を継いだ忠鄰が一八三五年、初めて大坂加番を命じられ、その後、幕末にかけて再度、加番を勤めるほか、定番も経験します。その時の公務記録が「覚帳」として、公益財団法人山崎本多記念館に残されており、わたしはいま、研究仲間たちとともにその調査と研究に取り組んでいます。

藪田 貫(兵庫県立歴史博物館長)

編集後記

10月末から11月にかけて市内各地で秋のイベントが行われます。各自治会や団体、サークルなどのステージ出演や、地元ならではの演出、地元野菜や特産品のコーナー、地元の味覚を楽しむ食イベントなども行われます。

また、秋といえば「紅葉」です。宍粟市では約1か月にわたり紅葉が楽しめる市内各地の紅葉スポットでは県内外からの多くの観光客や地元の人で賑わいます。今年も多くの人に来ていただき宍粟市のすばらしさを知ってもらえればいいと思います。その為にも情報を発信することは重要なことです。広報しそうもがんばります。

石

広報しそう 10月号

平成27年10月15日発行(127号)

発行/宍粟市 編集/企画総務部秘書広報課 〒671-2593 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6

☎0790-63-3000(代) FAX 0790-63-3061(代) ✉info@city.shiso.lg.jp 🌐http://www.city.shiso.lg.jp